Bちゃん（C4）は好きな色を選んで、始めは単色で色をつけていました。描いていくうちに偶然色が混ざると、その部分をどんどん塗り広げていきました。自分が行ったことで色に変化が起き、そのことに気付き、「楽しい」「もっとやってみたい」と心が動いたのだと思います。そして、Bちゃんは「不思議だね」と職員に伝えました。その後も、混ざった色を見て、「泥や幽霊のような色だね」と想像を巡らしていました。ただ絵を描くだけでなく、そこから生じる子どもの発想表現を大切にしていきたいと思いました。

ほのかの日常活動紹介

平野　成美

ほのかは、入所者13名（横地分類A1が10名、A1－Cが3名）が生活しているゾーンです。

Aさん（横地分類A1）は、職員が傍に行って声をかけるとじっと見つめ、ニコッとよく笑います。職員が動くとその動きを追って首を反対側に向けることもあります。また、部屋の中から廊下の方を向いていると、廊下を通る人をよく見ているようです。名前を呼びかけたり、話かけたりするとじーっと見つめ、更に呼びかけると笑顔になります。時々、目の前の物をじっと見つめて左手を伸ばし、触ろうとしているような動きが見られることがあります。

日常活動では、絵本での活動を行っています。だるまさんが・・・と本を見せながら読むと、左手がよく動き出し、じっと本に視線を向けて本の方に手が伸びてきます。また、だるまさんがと言っている途中から笑顔が見られ始め、そのまま間を開けると真剣な顔になります。ぷっ、ぷしゅーなどの言葉を聞くとニコッとし、次のことばを待っていたように感じました。

Bさん（横地分類A1）は、職員が近くに行き声を掛けると、大きな口を開け笑顔でこちらを見ます。隣の利用者に絵本を読んでいるとよく聞いて笑っていることがあります。

Bさんには、リズムが感じられやすい言葉のリズムを楽しむ活動を行っています。谷川俊太郎の「ことばあそびうた」を読んでいます。ことばあそびうたの書かれた紙をじっと見て時々職員の顔と天井をちらちらと見ますが、笑うこともなく真剣な顔で集中して聞いていました。

だいちの日常活動紹介

鈴木佳須美

だいちは入所者15名（横地分類B4－Bが1名、B6が3名、A5が2名、A6－Dが1名、A6が8名）が生活しているゾーンです。

Aさん（横地分類A6）は職員が歌を歌っていると側に来て、耳を寄せるようにしてじっと聴いている様子があります。また、ゆったりとした曲では目を閉じて耳を澄まして聞き、体の動きを止めたり揺らしたりして本人なりにリズムを感じているようです。日常活動では、手拍子の入る歌いかけを提供しています。「あんたがたどこさ」を歌いかけ、「さ」のところで手拍子をします。歌い始めると歌に合わせるかのように体を大きく揺らしリズムをとっています。職員が手拍子をすると手の方を見ています。続けていくと、手拍子に合わせるように体を寄せて動きを止めます。手拍子のリズムに気持ちを合わせて楽しんでいるようでした。また、歌い終わると職員の顔を覗き込むようにして見て、次に歌うのを期待して待っているように感じました。

Bさん（横地分類A6）は、ハサミで紙を切る、針と糸で縫うなどのような手元の動きや変化をじっと見て楽しんでいる様子があります。日常活動では、紙をめくり、スタンプをリズムよく押していく動きを見て楽しむ活動をしています。道具を出すと、常に持っているものをテーブルに置き、前かがみの姿勢になります。今からテーブルの上で行われることを期待して見たいという気持ちが感じられました。一定のリズムでスタンプを押していくと、職員の手の動きをよく見て、スタンプのリズムに合わせるように頷くようにして頭を揺らしています。一通りやり終わると、道具を自分のところへ引き寄せたり、職員の方にもっとやってほしいというように近づけたりしてくることもあります。「もう一度やりますよ」と声をかけて始めると、職員の手元を覗きこむようにして見ていました。じっと集中していて、紙をめくってスタンプを押すという繰り返す動きを見て楽しんでいるようでした。

今後も一人ひとりが楽しみ、充実した時間となるような活動を提供していきたいと思います。